

日韓発掘交流に参加して

奈良文化財研究所では、2006年より大韓民国国立文化財研究所との発掘交流を実施しています。これは両研究所の共同研究の一環で、双方の研究職員が互いの研究所に約2ヵ月間滞在し、実際の調査に参加するというものです。本年度は私が奈文研からの交流員として、2017年10月23日から12月15日まで、国立慶州文化財研究所に滞在しました。

今回の滞在期間中、私は新羅の王宮遺跡である月城の発掘調査に携わりました。国立慶州文化財研究所では、月城の発掘調査を継続的に進めています。西側城壁のあるA地区、宮殿の中心部であるC地区、外部の濠状遺構の亥子地区の3ヵ所の調査区のうち、私はC地区の発掘現場に参加しました。

実際の発掘調査では、日本で目にするものとは異なる遺構・遺物の数々に感動と驚きを覚える毎日でした。また、調査の進め方や遺構・遺物の解釈等多岐にわたり、韓国の担当者と片言の韓国語や英語、日本語とともに、スマートフォンの翻訳アプリ等も用いて議論をしながら発掘調査を進めました。ときには資料を作成し、多くの関係者と打ち合わせをする機会もありました。調査の方法や習慣のちがいなど、戸惑うことも少なからずありましたが、韓国の研究者とともにたくさんの成果を共有できたことは大きな収穫でした。

今回の滞りで様々な成果が得られたのは、両研究所が10年以上にわたって築いてきた信頼関係があってこそ、と確信しています。今後も一所員として共同研究に携わりたいと思います。

(都城発掘調査部 丹羽 崇史)



月城での発掘調査の様子